

# 序

厚生省心身障害研究班は、昭和61年度より新たに3年計画で、9研究班をもって発足した。本研究班はその一部門を構成するものである。本研究においては、小児期の種々の慢性疾患、事故等、わが国の小児の心身の健全な育成を阻害する要因の実態を調査し、その治療対策を確立することをめざすが、過去2年間の研究活動によって、種々の有益な情報が得られたことを確信するものである。なお、研究課題及び分担研究者は以下に列記する通りである。

- 1) 不整脈の管理指針及び心術後の管理指針に関する研究  
分担研究者 小佐野 満
- 2) 小児糖尿病における合併症早期診断基準の設定と合併症発症・促進因子の解析に関する研究  
分担研究者 日比 逸郎
- 3) 小児慢性特定疾患における total care の役割とその具体的推進法  
分担研究者 加藤 精彦
- 4) 小児の障害につながる傷病に関する研究  
分担研究者 大国 真彦
- 5) 新生児外科的疾患に関する総合的研究  
分担研究者 秋山 洋
- 6) 白血病児の生存の質改善に関する研究  
分担研究者 植田 穰
- 7) 乳幼児突然死症候群 (SIDS) に関する研究  
分担研究者 坂上 正道
- 8) 遺伝性疾患の発症予防に関する研究  
分担研究者 松田 一郎

ここに、昭和62年度の研究業績をまとめ報告する。研究が多岐にわたるので、全体の総括は省略し、各研究課題の総括をそれぞれの分担研究者に委ねた。これらの研究業績が、慢性疾患患児の診断、治療、予防対策に有効に利用されることを期待したい。

昭和63年3月

小児期の主な健康障害要因に関する研究班  
主任研究者 小佐野 満